



令和元年5月号

伊勢市青少年相談センターだより



伊勢市青少年相談センター 伊勢市小俣町元町540 小俣総合支所1階 TEL 22-7894

青少年指導員の皆様よろしくお願ひします

新年度が桜の開花とともに始まりました。青少年指導員の皆様、伊勢市における青少年の非行防止、健全育成と子ども達に安心を与えるため、街頭指導等の活動をよろしくお願ひします。異動等で、引継ぎをされた指導員の方もたくさん見えますが、特に特別な知識や能力が必要になることはありません。青少年を見かけたら、声を掛けて問題があれば、悪いところを教えてあげるという気持ちがあれば大丈夫です。相手は普通の小中学生、高校生がほとんどです。中には様々な事情や問題を抱えている青少年もいますが、指導員の役目は、まず、青少年に関心を持ち、見てくれている大人がいることを知らせることです。ためらわず、自信を持って声を掛けてください。

青少年指導員の活動を行うにあたって、青少年相談センターから、特に注意していただきたい3点を守っていただくようお願いいたします。

1点目は、青少年指導員は、あくまでも、教育委員会から委嘱された身分であり、警察官のように特別な権限は与えられていません。相手方の了承を得て、任意で行う活動であることを常に念頭においていただき、相手の身体に触ったり、犯罪を追究するような厳しい言葉や方法をとったり、喫煙少年の煙草を無理に取り上げるなど、その言動が行き過ぎて批判されることがないように十分気をつけていただきたいと思います。

2点目は、対象少年から危害を受けたり、逃げ出した少年を無理に追いかけて、指導員、少年が交通事故にあつて怪我をするなどの事故防止には十分注意してください。

3点目は、指導員は職務上知ることができた秘密は、絶対に他人に漏らさないようお願いいたします。

秘密の保秘は、身分が無くなってからも同様です。

※ [お知らせ] 5月15日は地区青少年指導員研修会です



青少年の日
5月19日
家庭の日

少年非行は増えている? データで比較

(1) 平成29年の内閣府「少年非行に関する世論調査」によると、少年非行について「かなり増えている」が42.3%、「ある程度増えている」が36.3%で、あわせて約8割の人々が、少年非行は増えていると回答しています。

本当に増えているのでしょうか。警察庁のまとめによると、平成29年に検挙された14歳以上の刑法犯少年は、2万6,797人で、前年より4,719人、率にして5%の減少でした。平成15年の14万4,404人から14年連続で減少が続き、5分の1以下の規模に激減して、戦後最小を更新しました。

少子化により、未成年の数が減っているため、当然という見方もありますが、対象となる14~19歳の1,000人あたりの検挙人数で比較すると、平成15年が17.5人だったのに対し、平成29年は3.8人と人口比で見ても同様に減少傾向であることがわかります。

「全体の数は減っているかもしれないが、凶悪犯が増えているに違いない」という声もよく聞かれます。しかし、殺人・強盗・放火などの凶悪犯の少年検挙数は平成15年の2,212人から平成29年は438人に激減しています。

データで比較してみると、社会一般の認識は、誤りのようです。

(2) なぜ少年非行は増えていると約8割の人々は感じているのでしょうか。これについて、メディアはその役割として「珍しいこと」「意外性のあること」にニュース価値を感じて報道するので、少年犯罪が激減したことでニュース価値が上がり、報道量が増えた。そして人はネガティブなニュースの方が耳に残りやすい傾向があるので、体感治安が悪化したと感じたという説明があります。

(3) では、少年犯罪が戦後、最も少なくなったと喜んでよいのでしょうか。

世論調査で、少年非行が増えた原因として、少年自身の問題では「忍耐力が無い、すぐキレル」、社会環境では「スマホやネットの普及で有害な情報を手に入れられる」、社会風潮では「他人の子どもに無関心で、地域の絆が希薄化している」が回答のトップでした。これらについては、異論は少なく、意見は一致しているようで、これらについての解決を図っていかねばいけないと言えます。

子どものスマホ 《ネット上の危険を見極めるのは大人でも難しい場合がある保護者の責任 》
るので、フィルターをかけて子どもを守ってください。》